

かたくり



第5号

2010年9月25日

福島大学
行政政策学類
塩谷教養演習
編集・発行
(隔月発行)

遊休農地再生事業（通称「Uプロ」

ジェクト」 次のステップへ！

季節的には秋に突入しているこの時期ですが、記録的な猛暑が続いています。着々と活動し日々進歩しているUプロジェクトは、今回も大きな進展がありました。遊休農地の整備はもちろんのこと、日々成長している作物の管理を徹底して行ってきましたが、今回はその努力が実る成果がありました。また、新たな作物の種まきもあり、遊休農地の様子は大きく変わっていききました。今月号ではそれらの作業の様子、福島大学の取り組みなどをお伝えしたいと思います。

○第七回作業（七月十七日）

前回の作業から約一カ月半後、七月十七日（土）は朝からすでに、猛烈な日差しで暑い日でした。夏真っ盛りの中、朝九時から遊休農地の第七回作業が行われました。今回は作業の参加者が非常に少ない状況でしたが、農地にとっては欠かせない草刈り&害虫の駆除を行いました。

まず、今回のメイン作業である草刈りに取りかかりました。作物が植わっているところから比較的離れた場所である、山の近くや、堀がされているところは、雑草でびっしりと地面が覆い尽くされているので、三台の草刈り機です。この草刈り機のおかげで、全部とはいきませんが、広い範囲の雑草を駆除することができました。学生は草刈り機を交代に使用し、機械をもっていない学生は鎌を用いて草刈りに従事しましたが、効率の良さを考えると草刈り機と鎌では雲泥の差がありました。機械のすごさを感じました。



作業中盤からは、草刈りと同時進行で、ジャガイモ畑に大量発生した TENTOUM シダマシの駆除作業をしました。自分たちが思っていた以上に大量に発生していましたが、一匹一匹を手作業で駆除していききました。

作業が終わると、昼食としてパスタを参加者でいただきました。今回は雑草や害虫の生命力の強さを思い知らされました。今後も農地の様子を地元の方々とも協力し、見守っていききたいと思います。

○第八回作業（八月七日）

前回の作業から二十日ほど経った八月七日（土）の朝九時、第八回目の遊休農地で作業が行われました。福島大学の新村先生、佐々木ゼミ、大黒ゼミ、西崎ゼミ、松野ゼミ、塩谷ゼミの各先生と学生が集まり、金谷川地区の住民のみなさんの協力のもとでソバの種まき作業や農地の除草作業、収穫時期を迎えた作物の収穫作業が行われました。

まず全体でソバの種まきが行われました。一列に並んでまく範囲があまり被らないようにして、一斉に進んでソバの種がまかれました。二十アールの面積に二十キログラムのソバの種をまきましたが、当初の予定よりもはやく終了しました。次に除草作業が行われました。遊休農地全体で雑草が生えていて、作物が植えられていない場所の雑草も刈られました。除草作業は作物のある場所では手を使ってじかに雑草を抜き、作物の生えてない比較的山に近い場所では草刈り機を使っ



っかりと育たなかった作物もありましたが、大きなトマトや数多くのミニトマトなどが収穫することができました。今回は午前中だけの作業でしたが非常に日差しが強く、気温が高かったために熱中症なども心配されましたが無事に作業を終えることができました。作物を育てるうえで様々な苦労がありましたが無事に多くのものを収穫できたのは地元の方々のご協力があったからこそであり、自分たちだけではこのような結果は得られませんでした。そうしたご協力に感謝するとともに、これからも温かく見守っていただき、時にはご指導をいただければ非常に嬉しいです。秋にはまた新しく植え付けを行う予定なので今回の一連の作物の経験を生かしていければと思います。

作業後は昼食を兼ねてUプロジェクト交流会が行われました。遊休農地から収穫されたものが使われた料理や地域の方々から提供していただいた食材などが中心となっていて、収穫されたジャガイモを使ったカレーをはじめとして七品目の料理が振舞われ、一人暮らしの大学生では普段なかなか食べることでできない豪華な食事となりました。ひとつひとつの料理がとてもおいしく、地元の食材ばかりなので新鮮さがとても際立っていて、おいしくいただくことができました。食材を提供してくださった方々や調理してくださった方々、本当にごちそうさまでした。食事がひと段落したところでプロジェクトUの目的や活動の背景の説明が行われ、また遊休農地で活動しているゼミからゼミの活動内容や農作業の様子などの発表がありました。これまであまり知ることのできなかった遊休農地に関係している団体の活動内容を知ることができ、各ゼミの遊休農地に関わる目的などを知ったうえで、今後はより協力して活動していけるようにしていきたいと感じました。

十四時からはプロジェクトU主催の講演会が開かれ、NPO法人ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会理事長の 大野達弘さん、東和地区（現二本松市）の新規就農者である 齊藤知子さんからお話をいただきました。大野さんは同協議会のこれまでの活動について、斎藤さんには自らの経験を通して新規就農を志した経緯など新規就農者の立場からお話をいただきました。会場には学生以外にも遊休農地などの地域の問題に携わる方々に参加していただき、講演後の質問の時間には様々な意見や質問があり、非常に有意義なものに感じました。二時間という時間でしたが非常に濃密な時間を過ごすことができ、地域の様々な問題について深く考えることができました。貴重なものとなりました。

今回は農作業から講演会という少しハードな日程となりましたが非常に充実した有意義なものとなりました。入学し、遊休農地で活動を開始してから五カ月ほどが立ちましたが当初よりも大きく様変わりしました。ただ野菜を作るだけでなく、農地での活動を通して地元の方々との交流や自分たちのゼミの活動にも大きく役立っていったらいいと考えています。



→プロジェクトUの代表者による説明の様子



○ビオトープ

前回の7月号でお知らせしたように、共同農地のビオトープについて今月号では掲載します。以下は、西崎ゼミの西崎先生に伺ったお話です。

遊休農地の真ん中に六月半ばひよつこりと現れた水辺空間（ビオトープ）は、地元の菊地吉徳さん、高野賢一さん、河野英一さんの全面的なリードのもとで、松野ゼミ、西崎ゼミの学生数名が手伝いながら、二日間たっぷりと汗水流して作られたものです。作業中には、かつてここで稲作がおこなわれていたこと、生活水の確保のために井戸が掘られたこと、それらがいかに利用されてきたのかについてお話をきくことができました。ビオトープの水源はこの井戸です。この土地で暮らしてきた人々が、自然に手をかけ、生活にうまく利用してきた経緯こそが、このビオトープ誕生の最大の特徴だと思っています。

先月号に「ビオトープが完成しました」とありましたが、実際は最初の一步を踏み出したばかりです。どのように活用できるかを含めてみんなで十年後、二十年後、さらに後世に残していくための方法を考えていきたいと思っています。三か月がたち、水草や草本が生え、カエル、トンボ、ドジョウなどの姿を見ることが出来ます。水辺空間をつくると多種多様な生き物たちが自然に集まってきます。長い目でビオトープを見守っていただければ幸いです。よく「ビオトープって何？」と聞かれるのですが、このような質問を含め、ぜひご意見をいただければと思います。まずは、親しみやすい名前を募集中です！

○ラブ！金谷川（第三回）



金谷川地区で活動している団体を紹介していく、「ラブ！金谷川」。第三回は「西崎ゼミ」です。今回紹介する西崎ゼミは、アフリカ地域研究・環境社会学が専門の西崎伸子教授のゼミです。八月二十六日に西崎ゼミの四年生である横山晋哉さんにお話をうかがいに行きました。横山さんには八月十九日からの中国旅行の直後であったにもかかわらず、インタビューを快く引き受けていただきました。

西崎ゼミは、三年生と四年生で構成され専門ゼミで、社会環境論の研究に取り組んでいます。一言に社会環境論といってもまちづくり、待機児童、炭焼きなど研究内容は多岐にわたり、「地域における青年会の役割」を研究するために金谷川地区の夏祭りの活動に参加することもあるそうです。また、西崎ゼミには、アフリカで現地の人々と数週間寝食を共にする西崎先生をはじめ、バイタリテイにあふれた人がたくさんいるそうです。

そんな西崎ゼミのテーマは二つあり、そのうちの一つは「現場主義」です。これはフィールドワークを重視するという事だそうです。このテーマに則って今年からビオトープ整備が行われており、今は一部の人が手が掛けていて西崎ゼミ全体の活動にはなっていませんが秋からゼミ全体の活動として本格化していく予定だそうです。二つ目は「生活知を掘り起こす」です。あたりまえなことを疑ってみることが西崎ゼミの研究の起点となっているのだそうです。

今回お話をうかがった横山さんによると、金谷川地区は農家の方をはじめとして様々な人が住んでおり、郷土愛と向上心が強いいため行政政策学類の研究材料として大変興味深いそうです。

西崎ゼミとは遊休農地を通じてこれからも協力していければと思います。

○金谷川地区をもっと知ろう！

（第二回）

今月号では第二回目として、「金谷川の神社探検」をテーマとした第三回の成果をお知らせします。

私たち三班は金谷川地区にある神社について調べました。きっかけとしては、金谷川地区の地図を見たとき、神社の数が多いと感じ、その神社を調べてみることで金谷川地区のことをもっと知りたいと考えたからです。そこで実際に富士神社、黒沼神社、成田山、八幡様、毘沙門様、宇佐八幡神社、石清水八幡宮、愛宕神社、若宮八幡神社の九つの神社に足を運びました。それぞれの神社に違った魅力があります。ここではすべてをお伝えすることはできないので、今回は「神社」と黒沼神社について、黒沼神社の明石宮司さんに伺った話をもとにお伝えしていきたいと思っています。

まず、「神社」とはなにかですが、神社は地域の福祉に貢献する・信仰を広めることを目的として設立されたものです。神社によってお祀りしている神様も違えば起源も様々なのです。現在、神社は宗教法人となっています。神社本庁をトップに各都道府県に神社庁がおかれ、各地の神社をまとめています。また、神社は宮司の方だけでなく、氏子のみなさんの支えもあり成り立っているものなのです。

次に黒沼神社について紹介したいと思います。実は黒沼神社と呼ばれる神社は福島に五社存在しており、今回私たちは浅川にある旧村社黒沼神社を調べました。黒沼神社の歴史は以下の通りです。

昔、東国がまだ平定されていなかったころ、第二十九代欽明天皇の第二皇子・淳仲倉太珠敷皇子（ぬなかくらふとたましきのみこ：のちの第三代敏達天皇）が東国を平定するために行幸されました。その時、人々を苦しめていた怪物を屠りました。その後、この地で皇子が怪物退治の折に亡くなられたという噂が流れてしまいました。皇子の身を案じ、都から下ってこられた欽明天皇皇后で皇子の母である石姫皇女はその噂をお聞きになり、たいそう嘆き悲しまれた末、黒沼に身を投じられました。この黒沼にちなんで、黒沼大明神とする宣命をうけたのです。皇子はその後無事に帰還し、敏達天皇となられました。宣命をうけた後の歴史は残念ながら詳細は分かっておらず、そのまま時代は移り変わっていきました。詳細が明らかになるのは第六十代醍醐天皇の御代になってからです。醍醐天皇の命によりつくられた延喜式に黒沼神社の名前が記載され、延喜式内社として今に至っているのです。

黒沼神社の御祭神（祀っている神）は以上の歴史から石姫命（いしひめのみこと）・淳仲倉太珠敷命（ぬなかくらふとたましきのみこと）です。また、御配神（主祭神以外の神）として申田彦大神（さるだひこのおおかみ：道案内の神）を祀っています。

このように長い歴史を持つ黒沼神社には様々なお祭りがあります。四月の例大祭では福大祭実行委員会のみなさんが参加し御神輿を担いだりし交流させていただきました。今後もっと多くの学生がこのような行事を通して地元との交流が深められればと感じました。

今回調査をしたことで金谷川地区を少しではありましたが知ることができました。これをきっかけにもっと金谷川を歩いたり、地元の方と交流したりしたいと強く感じました。今回の神社調査では本当に多くの方にお世話になりました。宮司の明石さんをはじめ道や神社の入り口等を教えてくださった方々はとても親切で本当に助かりました。ありがとうございました。

お知らせ

瓦版『かたくり』では、金谷川地区と大学との交流を進めるために、互いの行事やイベントを掲載していきたいと思っています。お祭り、運動会、コンサート、講演会、サークルの活動などなんでも結構ですので、情報をお知らせいただければ幸いです。また、『かたくり』に対するご意見・ご要望もぜひお寄せください。連絡先は福島大学塩谷研究室（TEL&FAX: 548-8328 MAIL: shioya@ads.fukushima-u.ac.jp）です。よろしくお願いたします。なお、本号の編集は、塩谷教養演習一年生の小野一尊・鈴木陽香・高信明宏・田中千絵が担当しました。

